

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生建築&デザイン専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生建築&デザイン専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役
業界関係者	中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ 設計関連センター センター長
業界関係者	高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 支社長
業界関係者	和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役
業界関係者	及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課長
業界関係者	安川 大介	株式会社 エイジェック 建設エンジニア事業部 九州ブロック ブロック長
業界関係者	松田 淳司	ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 企画デザイン部 部長
業界関係者	板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長
高等学校	市川 仁士	福岡県立 福岡工業高等学校 校長
有識者	井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表
有識者	元木 昭平	ウームデザインオフィス 代表
有識者	太田 昌宏	愛知産業大学 教授
地域住民	小林 芳光	博多区博多駅南第4区自治会 自治会長
卒業生	矢野 翔太郎	令和1年度 建築工学科 卒業生
保護者	大塚 剛幸	建築工学科 在校生 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年 7月16日（金）14：00 ～ 15：30

場 所：麻生建築&デザイン専門学校 7号館4階 743教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- （1）3つのポリシーを柱とした教育の質の向上についてどうか
- （2）学生の学習理解度を効果的に高めることについてどうか
- （3）業務の効率化を図り協調体制を強化することについてどうか
- （4）その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【評価結果・取組み状況】

①3つのポリシーを柱とした教育の質の向上

カリキュラムマップを再確認し、効果的な学修の流れを再検討した。また、必要に応じ学習配分の見直し検討を行い、改良部分については建築士指定科目の変更申請を行った。

②学生の学習理解度を効果的に高める

学習理解度アンケートに加え、授業内でアンケートフォームを活用し把握する頻度を増やした。オンライン授業と併用した理解度テストや確認テストを実施。資格試験対策指導にもオンライン授業を活用し、学びを止めないよう対応した。

③業務の効率化を図り協調態勢を強化する

リモートワーク・遠隔授業に対応するコミュニケーションツールを導入し、共有する業務が可視化された

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。
- ・学生の立場に立ち学生の学ぶ環境を考え、最善の対応を意識された内容かと思えます。

【改善の方策】

- ①建築士指定科目の変更申請を行い、認可を受けている。学修全体のボリュームは変更せず科目の配分を変え、業界で必要とされている技能の習得を柔軟に行えるよう改良しやすい科目の配分とした。今後人材ニーズに応えるため柔軟にカリキュラム変更を図りたい。
- ②オンライン授業の本格導入となり、学びを止めることなく授業を行うことができたが、ツールの活用スキルも不十分な面もあり、オンライン授業の質の向上が新たな課題となった。
- ③非常勤を含めた遠隔授業、リモートワークなど新しい環境へ急激に変化した。コミュニケーションツールの導入が共有・可視化に貢献した反面、適切な活用方法が確立や、ツールの選択肢が増えたことによる混乱があり、活用の標準化を図る必要がある。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像はホームページにて公表している。また、ルールブックへの記載、朝礼での唱和を通して、教職員に周知を図っており、学生には「学生便覧」に記し入学時の導入教育における必須要項として共有を図っている。
- ・社会の変化に対応できる良識とスキル・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として、また一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会貢献できる人材=グローバルシティズンを育成することを目標として、麻生塾生としてふさわしい態度や考えの指導に取り組んでいる。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。
- ・変化を当たり前としてとらえ、コミュニケーションにおける最大の要素である感謝する心を挙げられているところが素晴らしいと感じた。

【改善の方策】

- ・「学生便覧」またはホームページ上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。
- ・職員に対しても、定例会議等において周知を徹底する。 Web 活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・学校の理念に沿った運営方針・事業計画は、例年教職員対象のキックオフミーティングにて公表され共有しているが、コロナ禍の緊急事態宣言下で年度はじめの定例会議が持てなかったため、代替として部門内の分科会議等で共有を図った。
- ・学校の管理・運営体制は関連部署支援部門等との連携による委員会会議を持ち、部門内では定期的に責任者会議・教務会議・部門会議の実施により組織的に運営されている。

【委員からの意見】

- ・取組み内容に問題はありません。
- ・コロナ禍のなか、対応が難しいことも多いと思われませんが、よく対応されていると感じました。
- ・コロナ禍における対策を組織的に対応していると思います。

【改善の方策】

- ・グループ校と連携した業務の見直しを図り、委員会活動など業務の見直し検討・改善。
- ・定員変更を申請し必要な人材の募集・採用を進める。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・3つのポリシーに沿って学修の再確認を行った。社会の変化に伴った見直しが常に必要であり、今後の業界動向や人材ニーズについて教育課程編成委員などの関係者から情報収集を行った。これをもとに、カリキュラム会議等においても理念等との整合性を検討し見直しを図っている。
- ・各科のカリキュラムだけでなく、ディプロマポリシーを踏まえ、学生には初回授業時にシラバスを配布し、説明を徹底している。
- ・新たにオンライン授業を教育の手法に加え、急遽運用を変更せざるを得ない状況に対応し、限られた条件の中でも効果的な学修が行えるよう調整を図った。
- ・授業評価の実施・評価体制は、学生への授業アンケート・ホームルームクラスアンケートという形で定期的実施され、担当職員へのフィードバックがされている。また、遠隔授業の録画確認や校長代行による授業視察を行い、適宜改善指導がなされた。ミニアンケートや理解度の確認テストを実施し組織的改善と各科目における進捗管理においても改善を図っている。
- ・成績評価、単位認定そして進級・卒業判定についての基準は明確に設定されており、学則・学生便覧(学生のための学校ガイドブック)においても基本的な認定方針・要項を明確かつ簡潔に学生に示している。
- ・専修学校設置基準等の法令を遵守しており、教員要件、定員に対する法令に沿った教員を配置している。専門性を備えた教員を備え、学生数増加にも適切に対応できている。新任教員へは指導役教員がチューターとして就き OJT に臨んでいる。
- ・非常勤講師会・教務会議・コミュニケーション(責任者)会議での意見交換、情報共有を実施している。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。
- ・社会の変化への取り組みを常に意識され対応をされており良いと感じた。
- ・コロナ禍においても教育の質を落とさない取り組みをされていると思います。
- ・オンライン授業の効果は是非検証はどうしていくのか
→オンライン授業効果についてはミニアンケートや理解度の確認テストを実施し組織的改善を行う。

【改善の方策】

- ・業界の人材ニーズを踏まえ各学科で要求される専門性の動向を把握し、育成人材像に沿ったポリシーの見直しを図る。また、在校生も含め学校関係者に周知を図っていく。
- ・感染症対策を踏まえた実践的職業教育のあり方について検討し、受け入れとなる連携企業などとの調整を図る。
- ・今後はオンライン授業・対面授業に適した教員配置を展開していく。
- ・新たに加わった授業形態の特性に応じた授業改善を図るためのサイクルを計画・実施する。
- ・日々変化し続ける実情（トレンドや流行、技術仕様）に沿った研修内容・機会の充実が求められるため、計画的な研修計画を立て、能力向上や資質向上に努める。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取り組み状況】

- ・学生数の増加のため、多様性のある対応が求められている。
- ・コロナ禍による資格試験等の中止や日程変更など、開催判断の遅れなどもあり、対策指導などが充分に行えなかった事情もあった。計画してきた資格・検定・コンペ等も、目標として共有したものの都度大きな変更を余儀なくされ、対策の難しさもあった。
- ・企業の採用活動にも一時停止期間や遅れが見られ、またオンライン型の採用試験も多く柔軟に対応を図り指導にあたった。企業側の業績に応じた変更や方針転換もみられ、当初の計画とは異なる条件もある中、100%就職率を目指し支援を行っている。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。
- ・コロナにおける状況下で、教育・学生動向・企業動向及び例年より明らかに変化の激しい緊急性の高い対応など非常に大変な状況だったと思います。
- ・企業採用活動も多様化している。そこに対するアプローチ・工夫もと入れてはどうでしょうか。
- ・非常時であったが、資格取得等の実績を下げなかったことは評価

【改善の方策】

- ・コロナ禍を背景とした経済的理由による退学を想定し、支援金制度や奨学生制度などを活用した支援を行う。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取り組み状況】

- ・入学前から卒業後まで教育推進グループ、広報グループ、就職グループ、学生支援グループなどにより、学生の修学支援、進路支援を行っている。
- ・経済面の支援制度として、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化の認定など、各種の支援制度を準備している。
- ・就職支援では、就職専門職員による就職指導や担任による求人票や企業情報の提供を行っている。
- ・卒業生に関しては、再幹旋や就職相談などのキャリア支援を行っている。学生の課外活動支援として、部活動やサークル活動を行っている。
- ・生活環境への支援において、直営寮・提携寮を完備している。寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを取り入れている。また、留学生と日本人学生の双方が入りやすいように今年度 ASO International House II を開設した。学生のニーズに合わせ、一人部屋・二人部屋を選べるようにしている。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。
- ・学生の立場や状況に応じて柔軟に対応できる制度・取り組みとなっていると思います。
- ・キャリアアップも含めて卒業生のキャリア支援はもっと充実させた方が良いと思います。

【改善の方策】

- ・引き続き、よりよい修学支援、生活支援、進路支援の取り組みを継続していく。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取り組み状況】

- ・設置基準を遵守し整備して運営を行っている。学生数の増加による教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めている。
- ・総合図書館では、養成施設として必要な図書や各校からニーズのある書籍などをヒアリングしたうえで、定期的に収集し保管している。
- ・現場見学やインターンシップなど例年数多くの仕事の現場に触れる機会を設けてきたが、感染症予防対策のためその機会のほとんどが変更を余儀なくされた。例年受け入れに協力いただいている企業等との話し合いの結果、今年度は断念せざるを得ないものも多かった。十分な対応をとって協力いただけるいくつかの現場や施設などと連携した学びを行うことができた。
- ・毎年実施している避難訓練も、集合で一斉に開催することを避け、地震を想定した防災の初期行動のみの訓練にするなど感染拡大予防に配慮した形で実施した。
- ・新型コロナウイルスによる感染拡大という危機において、手指消毒や入館時検温、自己健康管理など安全管理体制が常に意識された1年となった。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。
- ・図書館の充実・貸し出し図書の実数は是非お願いしたい。
- ・社会人卒業生と気軽に意見交換できる機会があると良い。
- ・学生数増加による教育環境の質の低下にならないよう努める

【改善の方策】

- ・継続的な施設管理・整備が必要。また、業界の求める人材を育成するための新設備の導入の検討を進める。
- ・教職員や学生に向けた図書館の蔵書情報の発信を積極的に行う。
- ・インターンシップとカリキュラム及び単位設定の整備を進める。
- ・避難訓練やインターンシップ参加前の事前安全講習の徹底およびマニュアル化。
- ・危機管理マニュアルの感染症発生（クラスター）時などを想定した体制を維持する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取り組み状況】

- ・アドミッションポリシーを募集要項にて公表し、適正に募集活動を実施している。
- ・選考方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学選抜を行っている。
- ・法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定を行っている。
- ・金額変更などの決定事項は議事録に記載し、校納金シートや募集要項へ正確に反映させるとともに関係部署への情報共有を行っている。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。
- ・卒業した後のライフプランをしっかりと伝えることも大切だと思います。

【改善の方策】

- ・選考基準、選考方法を毎年見直し、適正な募集活動に取り組む。
- ・学生数は増加しているが、各学科の組織や授業形態が学生の成長を保障できるものとなっているのか、カリキュラム会議や学科検討会議内で継続して検討をしていく。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取り組み状況】

- ・財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。
- ・監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

- ・情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。

【改善の方策】

- ・今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取り組み状況】

- ・専修学校設置基準・法令等を遵守し、関係部署との連携を行い適正な学校運営を行っている。
- ・グループ校と統合的に機能している本部組織と、学校単体の部門として機能している部分の役割分担をもって取り組んでいる。また、学生には学生便覧に個人情報保護基本方針やハラスメント防止に関する記載し理解を促している。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。

【改善の方策】

- ・グループ校共通の支援部門と連携を図り情報を共有し継続して取り組む。

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取り組み状況】

- ・学校教育、学校運営について、毎年、自己点検・評価を実施し、課題解決に取り組んでいる。
- ・職業実践専門課程の基準を基に学校関係者・教育課程編成委員会を開催し教育に関する検証を行っている。
- ・改善指摘事項については内部監査を実施し検証されている。これらの情報はWebサイトに公示している。

【委員からの意見】

- ・取り組み内容に問題はありません。

【改善の方策】

- ・自己点検・評価、および内部監査の内容は教務会議にて共有する。
- ・活動の意義や必要性について教職員が理解を深められようように発信を行う。
- ・教職員の自己点検・評価の認識を深められるように委員の選出にも仕組みを設け理解度や意識の均一化を図る。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・学生のボランティア活動は推進委員会を設置し、グローバルシティズン教育の方針に沿って多様な機会を提供する仕組みとしている。今年度のボランティア活動の多くは感染症拡散防止の観点から見送られた。
- ・業界に広く貢献していくための活動として地域の「まちづくり推進協議会」と連携した研究会をもち、研究会やワークショップなど連携を行った。
- ・地域の商店会との活性化企画への協力や、地元の病院施設の改修提案、市内の歴史的建築物の保存・研究会などの協力を行っている。

【委員からの意見】

- ・SDGsの取り組みも今後注視してはいかがでしょうか。

【改善の方策】

- ・感染症の流行状況に注意しながら、本格的な活動の再開を検討する。
- ・学校特性や学んでいる専門性を活かした活動機会の拡充に取り組みたい。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・留学生の在籍管理やビザ更新に関しては、日本語教育センターと連携し法令を遵守し適切に対応している。また、留学生の就職支援においても就職支援グループと担任間での連携を図り支援を行っている。学則には学生便覧に外国人学生規定を明記し学生へ周知している。
- ・在学生の海外教育機会としては、学生便覧に海外留学に関する要綱を記載し、海外留学支援制度について紹介している。グループ校と同期しながら本部・事業開発センターを中心に留学先の確立、教育体制の担保、安全対策など各種サポートを行っている。ただし2020年度はコロナ禍の影響で、海外留学プログラムを実施することができなかったが、個人面談等を頻繁に実施し、学生・保護者の要望（復学・留学待機）をしっかりと把握。心配や不安を抱かせないように、担当者と学生・保護者とのしっかりとコミュニケーションを取るよう努めた。
- ・各国の留学生受入れ状況を常に把握し、将来の留学の可能性に向けて常に最新情報を「留学通信」という紙媒体を通じて学生・保護者へ共有するよう務めた。

【委員からの意見】

- ・留学生の受け入れや海外留学は出来なかったかもしれないが企業や大学来ている外国人を活用するなど学生のグローバルシティズンとしての意識を向上させる取り組みは出来たのではないのでしょうか。

【改善の方策】

- ・日本語教育センターをはじめ、学生課、就職支援グループなど関係部署と連携して全教職員の留学生支援に関する意識向上を図る。